

- 技術検討会の資料の精査の過程で、主要資材の月当たり必要量の見直し等に伴い、環境影響の予測に必要な資機材運搬車両等の稼働台数等の変更が必要となったことから、改めてシミュレーションを実施し、以下の項目の環境影響の予測等を行った。

大気質

- ・ 主要資材の月当たり必要量の見直し等に伴い、資機材運搬車両等の運行台数、建設機械等の稼働台数、燃料消費量、造成面積に変更が生じるが、その程度は小さく、予測対象時期に大きな変更は生じない。
- 今回のシミュレーションにおける大気汚染物質・粉じんの予測結果は、前回と同程度であり、環境保全の基準又は目標を下回る結果に変わりはない。
- よって、今回の評価も、前回と同様の結果となった。

騒音、振動

- ・ 主要資材の月当たり必要量の見直し等に伴い、資機材運搬車両等の運行台数、建設機械等の稼働台数に変更が生じるが、その程度は小さく、騒音・振動の予測対象時期に変更は生じない。
- 今回のシミュレーションにおける騒音・振動の予測結果は、前回と同程度であり、環境保全の基準又は目標を下回る結果に変わりはない。
- よって、今回の評価も、前回と同様の結果となった。

土砂による水の濁り

- ・ 主要資材の月当たり必要量の見直し等に伴い、濁り(SS※)発生負荷量に変更が生じるが、その程度は小さく、予測対象時期に変更は生じない。濁り(SS)発生負荷量の総量は今回のシミュレーションの方が小さくなる。
- 今回のシミュレーションにおける濁りの拡散範囲・堆積に関する予測結果は、前回と同程度であり、大きな変化はみられない。
- よって、今回の評価も、前回と同様の結果となった。

(※ SS : 浮遊物質質量 Suspended Solid 水中に浮遊する粒子径2mm以下の不溶性性固体の微粒子)

水中音(ジュゴン等への影響)

- ・ 主要資材の月当たり必要量の見直し等に伴い、水中音の発生源である船舶の隻数が減少するが、水中音の予測対象時期に変更は生じない。
- 今回のシミュレーションにおける水中音に関する予測結果は、前回と同程度であり、大きな変化はみられない。
- よって、今回の評価も、前回と同様の結果となった。

第6回技術検討会を踏まえた予測評価の実施等について

結果

- 主要資材の月当たり必要量に関連した資機材運搬車両等の稼働台数等の変更の程度は小さく、今回のシミュレーションにおける各予測結果は、前回と同程度。また、環境保全の基準等を満足。
- 今回の予測結果の評価も「変更後の環境影響の程度は、変更前と比べて同程度又はそれ以下」となり、前回と変わらない。

(注) なお、今回実施した環境影響の予測・評価については、第23回環境監視等委員会の資料3-3(大気質)、資料3-4(騒音)、資料3-5(振動)、資料3-6(水の濁り)、資料3-7(水中音)に変更箇所を明示。

※上記のほかに、第23回委員会資料について以下を訂正。

- 資料3-3(大気質)P.19 (「辺野古集落・下り」と記載すべき箇所に「世富慶集落・下り」と記載していたため改め。)
- 資料3-4(騒音)P.10 (資機材運搬車両等の運行台数の推移グラフの表題を改め。)
- 資料3-4(騒音)P.14 (「ツミ」の営巣地点及び「オリオオコウモリ」の確認位置を追記。)
- 資料3-6(水の濁り)P.4 (「SCP施工範囲」「SD施工範囲」と記載すべき箇所に「浚渫範囲」「埋立地内」と記載していたため改め。)
- 資料3-6(水の濁り)P.4 (表2.5にボーリング地点「S-10」「S-17」を追記。)
- 資料3-6(水の濁り)P.13 (汚濁防止膜の追加展張をする期間を「5年次4ヶ月目～5年次8ヶ月」と記載すべき箇所に「5年次4ヶ月目～5年次7ヶ月目」と記載していたため改め。)
- 資料3-7(水中音)P.3 (音圧レベルの合成値がピークとなる時期のうち、代替施設東端で杭打ち工事行われる時期を「9年次1～4、6ヶ月」と記載すべき箇所に「9年次1～3、6ヶ月」と記載していたため改め。)
- 資料3-7(水中音)P.7 (捨石投入工事の施工箇所近傍での音圧レベルを「160dB以上165dB未満」と記載すべき箇所に「155dB以上160dB未満」と記載していたため改め。)

⇒ 上記の訂正によって、環境影響の予測・評価の結果は変わらない。